

別紙 2 4

【薬効分類】 6 2 5 抗ウイルス剤

【医薬品名】 リルピビリン塩酸塩・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミドフマル酸塩

【措置内容】 以下のように使用上の注意を改めること

下線は変更箇所

現行			改訂案		
2. 禁忌（次の患者には投与しないこと） リファンピシン、リファブチン、カルバマゼピン、フェノバルビタール、フェニトイン、フェニトイン・フェノバルビタール、ホスフェニトイン、アパルタミド、セイヨウオトギリソウ （St. John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート）含有食品、エンザルタミド、デキサメタゾン（全身投与）（単回投与を除く）、プロトンポンプ阻害剤（オメプラゾール、ランソプラゾール、アスピリン・ランソプラゾール、ラベプラゾール、エソメプラゾール、ボノプラザンフマル酸塩、アスピリン・ボノプラザンフマル酸塩）を投与中の患者			2. 禁忌（次の患者には投与しないこと） リファンピシン、リファブチン、カルバマゼピン、フェノバルビタール、フェニトイン、フェニトイン・フェノバルビタール、ホスフェニトイン、アパルタミド、セイヨウオトギリソウ （St. John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート）含有食品、エンザルタミド、 <u>イボシデニブ、エンコラフェニブ、ミトタン、</u> デキサメタゾン（全身投与）（単回投与を除く）、プロトンポンプ阻害剤（オメプラゾール、ランソプラゾール、アスピリン・ランソプラゾール、ラベプラゾール、エソメプラゾール、ボノプラザンフマル酸塩、アスピリン・ボノプラザンフマル酸塩）を投与中の患者		
10. 相互作用			10. 相互作用		
10.1 併用禁忌（併用しないこと）			10.1 併用禁忌（併用しないこと）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エンザルタミド	リルピビリンの血中	これらの薬剤のCYP3A	エンザルタミド	リルピビリンの血中	これらの薬剤のCYP3A

	濃度が低下し、本剤の効果が減弱するおそれがある。	誘導作用により、リルピペリンの代謝が促進される。	<u>イボシデニブ</u> <u>エンコラフェニブ</u> <u>ミトタン</u>	濃度が低下し、本剤の効果が減弱するおそれがある。	誘導作用により、リルピペリンの代謝が促進される。
--	--------------------------	--------------------------	---	--------------------------	--------------------------